

## 永井政次博士の逝去を悼む

時 田 郁

J. Tokida : Masaji NAGAI (1905-1966)

“千島海藻誌”<sup>16)17)</sup>の著者、農学博士永井政次君は1966年11月22日、盛岡市で背腫瘍のため逝去された。行年61歳9ヵ月であった。岩手大学農学部教授として植物病理学講座を担当し、図書館長を兼ね、金沢大学教育学部教授を昭和24年から10年間兼任するなど、学者として円熟した活動が更に期待されていた折としてその逝去は深く惜まれる。

君は明治38年2月9日、石川県輪島に生まれ、金沢第一中学校、北大予科を経て、昭和4年北大農学部農業生物学科を卒業、伊藤誠哉教授の指導で水生菌の研究を卒業論文とし、寄主である淡水藻を検鏡したことが藻類に近づくきっかけとなり、当時、コンブ科の研究を再開された宮部金吾名誉教授のてつだいをすることになった。昭和5年から15年まで助手として勤務中、主として千島の海藻の採集と研究に従事し、宮部博士との共著でコンブ科に関する業績を次々に発表するとともに、“千島海藻誌”を完成して発表、これを学位論文として昭和16年農学博士の学位を授与された。しかし、同年の秋、北大を退官して蒙古聯合自治政府中央農林試験場に赴任して植物病理学の研究に復帰した。

終戦とともに蒙古政府は解体し、翌年1月8日、佐世保に引揚者として上陸、郷里輪島の所有地に終戦前から帰農していた夫人とともに農業に従事したが、その年の12月、盛岡農林専門学校に教授として迎えられ26年3月に岩手大学農学部教授となり、多数の研究業績を残している。また、岩手県文化財専門委員、盛岡市文化財調査委員として、



文化財植物の調査と保護に努力し、盛岡市内の桜の名木に関する調査は、菊地政雄教授との共篇で市教委から出版<sup>20)</sup>されている。

君は身体頑健で明朗な快男児であった。学生時代から山とスキーを趣味とし、千島の海藻採集という困難を克服して、その貴重な標

本は北大農学部の腊葉箱に保存されている。大形コンブ科植物の腊葉を模造紙の全紙を台紙として作る仕事に没頭していた君の姿が印象に残っている。岩手大学では学生に慕われ、卒業式の日には家の前の道を学生たちが口々に「親父ノ山男ノバンザイノ」と叫びながら通るのが例であった。

操子夫人はかねてから篤信なクリスチャンであるが、君も昭和36年に入信して受洗するに至った。夫人との間に1男2女があり、長男と長女にはそれぞれ2児と3児があって、5人の孫さんの良いおちいちゃんでもあった。盛岡を愛して永住の地ときめ、館坂橋に近い安倍館町2—23に立派な家を新築して住まれたが、間もなく病にたおれ、住んだのは1年に満たなかった。入院中、盛岡で植物病理学会があったので、何人かの旧友に泊って貰うのだといて2階の整備をいそがせるという心の配りようであったが、完成したけれども、どなたも遠慮して泊っていただけなかったとは夫人の話である。

#### 業績目録、主として藻類及び水生菌に関するもの

- 1) 1931. Studies on the Japanese Saprolegniaceae. Jour. Fac. Agr., Hokkaido Imp. Univ. 32(1): 1-43, pls. 1-7.
- 2) 1932. a. On a new species of *Sphacelaria*. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 12(2-3): 142-147, fig. 1.
- 3)——b. (K. Miyabe & M. Nagai) On *Hedophyllum Bongardianum* (P. et R.) Yendo and five species of *Laminaria* from the North Kuriles. Ibid. 12(4): 194-205, pl. 5.
- 4)——c. (K. Miyabe & M. Nagai) *Cymathaere crassifolia* (P. et R.) De Toni from the southern Kuriles. Proc. Imp. Acad. 8(4): 123-126, figs. 1-4.
- 5)——d. (K. Miyabe & M. Nagai) *Pleuropterium paradiseum*, a new genus and species of Alarieae from the northern Kuriles. Ibid. 8(4): 127-130, figs. 1-2.
- 6) 1933. a. Meeressalgen aus Kamtschatka. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13(1): 12-19.
- 7)——b. On a new species of *Cymathaere* from the Kurile Islands. Proc. Imp. Acad. 9(9): 531-534, figs. 1-6.
- 8)——c. Additional note on the Japanese Saprolegniaceae. Bot. Mag. Tokyo, 47(554): 136-137, fig. 1.
- 9)——d. (K. Miyabe & M. Nagai) Laminariaceae of the Kurile Islands. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13(2): 85-102.

- 10) 1934. a. 千島の海藻. 千島概況. 北海道庁, 120-140.  
 11)——b. (K. Miyabe & M. Nagai) Note on a new form of *Laminaria japonica* Aresch. Trans. Sapporo Nat. Hist. Soc. 13(3): 112-114, figs. 1-2.  
 12) 1935. a. Die japanischen Formen von *Fucus evanescens*. Jap. Jour. Bot. 7(3-4): 323-348, figs. 1-14.  
 13)——b. On *Constantinea rosa-marina* (GMEL.) P. et R. and *C. subulifera* Setch. (邦文) 植物研究雑誌, 11(11): 780-783, figs. 1-3.  
 14) 1936. オニコンプの一変型種と其成因に就て. 科学 6(11): 464-466.  
 15) 1940. a. 色丹島の海藻. 大野笑三篇, 南千島色丹島小誌. アチックミュージアム彙報 47: 63-70.  
 16)——b. Marine Algae of the Kurile Islands. I. Jour. Fac. Agr. Hokkaido Imp. Univ. 46(1): 1-137, pls. 1-3.  
 17) 1941. Ditto. II. Ibid. 46(2): 139-310, pls. 4-6.  
 18) 1950-1951. 水生菌類の解説. 東北生物研究, 1(3-4): 132-135, 1950; 2(1): 47-49, 1951  
 19) 1955. 藻菌類, 特に游泳細胞を有する目の最近の分類体系. 枋内・福土両教授還暦記念論文集, 190-196.  
 20) 1964. (菊地政雄・永井政次) 盛岡地方の桜. 盛岡市教育委員会, 文化財調査特別報告, 第1号, 1-22, pls. 1-7, map. 1.

## 学 会 録 事

## 会 員 移 動

(昭和42年4月1日から10月31日まで)

新 入 会 (37名)